



昭和65年春の完成を目指して、工事は急ピッチで進められています。

北部工業団地に21社が立地

和泉工業団地に引き続き、第二の工業団地として北部工業団地十二・八畝を造成し、優良企業の誘致に努めてまいりましたが、関係各位のご努力の賜であって、未処分地は一区画千百坪を残すだけとなり、二十一社から立地いただ

き、これまた盛んに新築工事が進められ、活気に満ちています。

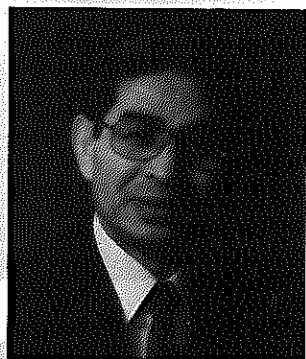
治水対策事業を積極的に推進

更には、輪中地帯の白根郷を水害から守るための治水対策事業の一つとして進められてきた特定構築物改築事業・鷲ノ木水門改築も昨年十二月九日に完成をみました。

活力あるまちづくりを推進

年頭の「ごあいさつ」

白根市長 滝沢昌三



年頭にあたり、謹んでごあいさつを申し上げます。まずもって、天皇陛下の一日も早いご平癒を、心からお祈り申し上げます。

さて、本市は「大風の舞う田園都市」をキャッチフレーズに、調和のとれた活力あふれるまちづくりを推進し、着実な歩みを続けてまいりました。

市制30周年、市民とともに祝い

その白根市が、本年六月一日に市制施行三十周年を迎えます。この記念事業の一つであるカルチャーセンター（多目的体育館）の建設も始まり、その完成が待たれるところでもあります。

市民の英知を結集した市制三十周年記念事業にしたいと、昨年八月一日付けでいただいた答申に基づき、その計画策定作業を進めてまいりました。計画により、市制三十周年を迎える六月一日から約一年間にわたって、多彩な記念事業や記念行事を計画してまいります。記念式典はカルチャーセンターの完成を待って行う予定であります。市制三十周年を市民の皆さんとともに取り組み、お祝いし、個性豊かなまちづくりの起爆剤にしたいと考えております。

国道4車線化早期着工に努力

は、用地買収の交渉を進めており、早期に開校できるよう、その促進に努力してまいります。

（仮称）北部中学校の用地買収に着手

次に、建設を急がなければならぬ（仮称）北部中学校について

引き続き信濃川下流河川改修、中ノ口川改修事業など、国県と連絡を取り合って、積極的にその推進に努めてまいり所存であります。

農工商調和をとり産業の活性化推進

そのほか、水田農業確立対策、米の輸入自由化問題など、農業情勢は依然厳しさを増してきており

ます。大型店進出計画による商業対策も今後の大きな課題であり、いづれにせよ農工商の調和をとりながら、産業の活性化を目指してまいらなければなりません。

市勢発展に各位のいっそうのご協力を

こうしたことから、本市は課題が山積しており、しかも大プロジェクト

エクトがめじろ押しで、財政運営もいっそう厳しさを増してまいりましたが、最大効果を上げるよう効率的な行政運営を行ってまいり所存であります。

本年も、市民各位から市勢発展に対するいっそうのご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

私の抱負



真柄絵美さん (大通小学校5年生 昭和52年生まれ)

自分で物語を作りたい

探偵物の本を読むのが好きで、学校でも「物語クラブ」に入っています。今年は最高学年になるので、自分で物語を作ってみたくて思っています。楽しいお話が書けたら最高なんです。

スポーツでは、鉄棒の逆上がりや苦手なので、なんとかできるよう練習したいし、勉強は算数が難しくなってきたので、しっかりとがんばりたいです。

将来の夢は、学校の先生になりたいと思っています。



田中信明さん (能登1 昭和40年生まれ)

研修でヨーロッパへ

昨年大学を卒業し、県職員に採用されました。仕事では、選挙管理委員会に配属され、今年の参議員選挙が初の選挙経験になります。ミスをしたくないようにがんばりたいと思います。また、海外研修制度があるので、論文審査になんとかパスして、ヨーロッパに行きたい。ちよつと難しいかな？

趣味は卓球、テニス、スキー、ゴルフとやりますが、特にスキーとゴルフがうまくなりたい！

通勤が混雑したいへんなので、新潟市を結ぶ道路をもう一本造るか、国道の拡幅を市へ要望します。



早川君代さん (下赤洗 昭和28年生まれ)

いろいろなことに挑戦

やりたいことがたくさんあるんです。最近はずっと一段落して、やっとなんか自分の時間が持てるようになったな、という感じがします。余裕が出てきたんでしょうね。子どもを寝かせてから、何かしたいなと思っています。生け花やお茶習字、そんなに改まったものじゃなくても、何でもやってみて興味を広げてみたいですね。

家の中に閉じこもってばかりいると、世間が狭くなってしまいうる気がしますから、積極的に外へ出て、いろいろな人と会ってみたいと思います。



斉藤広資さん (三の町 昭和16年生まれ)

人づくりに力を入れて

職場でも家庭でも、今がいちばんしつかりしなければならぬ年齢だと思っています。これからは信頼関係をたいせつにして、とにかく子どもが自立するまでは健康でいたい。日当たりのよい家に住み、家族で海外旅行できる日を夢見ています。まち全体をもっとカラフルにすれば、まちも明るくなるし、子どもの心も明るくなると思います。食べ物がいよいよころです。田畑、稲など自然を生かした観光も考えられるのでは。心の文化にも目を向けて、人づくりに力を入れてほしいですね。



大旗イツさん (和泉 昭和4年生まれ)

自分自身を見直す

六十歳が自分にとってどういう年か考えると、まさに自分自身を見直すとき、という気がします。まず、体の衰えを感じるのが六十歳ではないでしょうか。今までと同じことをしていても、ああ、年かな、と思う。肉体的にも精神的にも見直す時期がきているな、と感じます。それに経済的な面でも老後に向かう大事な時期ですね。

家庭にあっても外に出て、明るく楽しく生活するためには、やはり自分自身を磨く努力がたいです。友達をたくさん作りたいたいと思います。